



特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合 2016 年度定時総会

日時：2016 年 4 月 27 日（水）14：00～17：00

会場：東京大学 山上会館 大会議室

開会

【特別講演】 14：00～15：15

タイトル：「第 5 期科学技術基本計画の基本構想と推進／横幹連合に期待すること」

講演者：原山 優子 氏（内閣府総合科学技術・イノベーション会議 常勤議員）

【議事】 15：30～16：20

第 1 号議案：新役員の選任

第 2 号議案：2015 年度事業報告および 2016 年度事業計画案

第 3 号議案：2015 年度収支決算報告および 2016 年度予算案

第 4 号議案：その他

【木村賞表彰、受賞論文紹介】 16：25～16：55

受賞者 佐藤 彰洋 氏（京都大学）

「経済社会データおよび環境データを用いた空間評価指標の大規模計算：地域メッシュ統計の利活用」

閉会

■懇親会 17：10～18：30 山上会館 食堂（参加費 3,000 円）

■2016 年度第 1 回理事会（山上会館会議室 懇親会終了後、1 時間程度を予定）

原山 優子（はらやま ゆうこ）氏 略歴

1973年フランス・ブザンソン大学理学部数学科卒業、1996年スイス・ジュネーブ大学院教育学研究科修了（教育学博士）、1997年スイス・ジュネーブ経済学研究科修了（経済学博士）、1998年スイス・ジュネーブ大学経済学部助教授、2001年（独）経済産業研究所研究員、2002年東北大学大学院工学研究科教授、2010年経済協力開発機構（OECD）科学技術産業局次長、2013年東北大学名誉教授、2013年総合科学技術・イノベーション会議議員（常勤）、2009年 - 2010年横幹連合理事・副会長

1. 第1号議案：新役員選任 2016年度横幹連合役員（案）

役職		#	任期			氏名	所属	所属学会	推薦母体	
			初就任	始	終					
会長	新任(理事としては留任)	1	2004.4	2013.4(会長:2016.4)	～	2017.3(会長:2017.3)	鈴木 久敏	情報・システム研究機構	日本オペレーションズ・リサーチ学会	理事
副会長	留任	2	2007.4	2015.4(副会長:2015.4)	～	2017.3(副会長:2017.3)	遠藤 薫	学習院大学	社会情報学会	理事
副会長	留任	3	2009.4	2015.4(副会長:2015.4)	～	2017.3(副会長:2017.3)	船橋 誠壽	北陸先端科学技術大学院大学	計測自動制御学会	理事
理事	留任	4	2011.4	2015.4	～	2017.3	大場 允晶	日本大学	日本経営工学会	理事
理事	留任	5	2015.4	2015.4	～	2017.3	木全 晃	新潟大学	日本経営システム学会	学会
理事	留任	6	2015.4	2015.4	～	2017.3	佐藤 誠	東京工業大学	日本VR学会	学会
理事	留任	7	2015.4	2015.4	～	2017.3	杉本 謙二	奈良先端科学技術大学院大学	システム制御情報学会	学会
理事	留任	8	2015.4	2015.4	～	2017.3	西村 秀和	慶應義塾大学	計測自動制御学会	学会
理事	留任	9	2015.4	2015.4	～	2017.3	藤井 享	(株)日立製作所	経営情報学会	学会
理事	留任	10	2011.4	2015.4	～	2017.3	松岡 由幸	慶應義塾大学	日本デザイン学会	学会
理事	留任	11	2015.4	2015.4	～	2017.3	三藤 利雄	立命館大学	日本MOT学会	学会
理事	留任	12	2015.4	2015.4	～	2017.3	皆川健多郎	大阪工業大学	日本経営工学会	学会
理事	新任	13	2016.4	2016.4	～	2018.3	鎌倉 稔成	中央大学	日本統計学会	学会
理事	新任	14	2016.4	2016.4	～	2018.3	島田 政信	東京電機大学	日本リモートセンシング学会	学会
理事	新任	15	2016.4	2016.4	～	2018.3	末岡 徹	(株)地圏環境テクノロジー	日本品質管理学会	学会
理事	新任	16	2016.4	2016.4	～	2018.3	田中 覚	立命館大学	日本シミュレーション学会	学会
理事	新任	17	2016.4	2016.4	～	2018.3	椿 美智子	電気通信大学	研究・イノベーション学会	学会
理事	新任	18	2016.4	2016.4	～	2018.3	坪井 康次	東邦大学	日本バイオフィードバック学会	学会
理事	再任	19	2003.4	2016.4	～	2018.3	出口 光一郎	東北大学	計測自動制御学会	理事
理事	新任	20	2016.4	2016.4	～	2018.3	中西 寛子	成蹊大学	応用統計学会	学会
理事	新任	21	2016.4	2016.4	～	2018.3	保坂 寛	東京大学	精密工学会	学会
理事	新任	22	2010.4	2016.4	～	2018.3	本多 敏	慶應義塾大学	計測自動制御学会	理事
理事	再任	23	2012.4	2016.4	～	2018.3	六川 修一	東京大学	日本リモートセンシング学会	理事
監事	留任	1	2005.4	2015.4	～	2017.3	木村 忠正	(国研)科学技術振興機構	日本信頼性学会	理事
監事	新任	2	2012.4	2016.4	～	2018.3	庄司 裕子	中央大学	日本感性工学会	学会
注: 初就任時期は任意団体の時期を含む										
名誉会長		1		2008.4	～		吉川 弘之		(初代会長)	
顧問		1		2013.4	～		木村 英紀		(第2代会長)	

2016年度 新任・再任役員 略歴

会長候補

鈴木 久敏 (新任 (理事としては留任)) (情報・システム研究機構監事)

- 1976年4月 東京工業大学工学部助手
- 1988年4月 筑波大学助教授 社会工学系
- 1993年4月 筑波大学教授 社会工学系
- 2001年4月 筑波大学大学院ビジネス科学研究科研究科長
- 2002年4月 筑波大学企画調査室長
- 2004年4月 筑波大学大学院ビジネス科学研究科研究科長
- 2006年4月 筑波大学大学研究センター長
- 2009年4月 筑波大学理事・副学長
- 2013年3月 筑波大学退職、名誉教授
- 2015年7月 大学共同利用機関法人情報システム研究機構監事

理事候補

鎌倉 稔成 (新任) (中央大学理工学部教授)

- 1980年9月 東京工業大学大学院理工学研究科経営工学専攻博士後期課程中退
- 1980年10月 文部省統計数理研究所研究員
- 1985年4月 中央大学理工学部専任講師
- 1989年4月 中央大学理工学部助教授
- 1995年4月 中央大学理工学部教授 (現在に至る)
- 2005年11月 中央大学大学院理工学研究科委員長 (~2009.10)
- 2011年8月 中央大学産学官連携・知的財産戦略本部長 (~2015.3)
- 2014年4月 中央大学理工学研究科長 (現在に至る)

島田 政信 (新任) (東京電機大学教授)

- 1977年3月 京都大学工学部航空工学科卒業
- 1979年3月 同修士課程修了
- 1979年4月 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 入社、ALOS 科学プロジェクト担当。SAR を用いた地球環境モニター (森林面積や炭素量の推定と地球温暖化の関連) を研究テーマとする
- 1990年 NASA JPL 留学
- 1999年 博士 (工学) (東京大学)
- 2011年 IEEE Fellow
- 2015年3月 JAXA 定年退職後、上席研究開発員
- 2015年4月 東京電機大学理工学部建築・都市環境学系教授
- 2015年4月 山口大学工学部客員教授

末岡 徹 (新任) ((株)地圏環境テクノロジー)

- 1977年3月 京都大学工学部土木工学科卒業
- 1977年4月 大成建設(株)技術研究所入社
- 1977年9月 大成建設(株) 国際事業部ナイジェリア・カドナ製油所作業所
- 1980年6月 大成建設(株)技術研究所 土質研究室主任
- 1986年4月 (豪)ニューサウルウェールズ大学理工学部大学院土木工学科修士卒業
- 1995年4月 大成建設(株)技術研究所 地盤研究室長
- 2004年4月 大成建設(株)技術センター 土木技術研究所長
- 2007年3月 大成建設(株)技術センター 副技術センター長兼土木技術研究所長
- 2012年~2014年 公益社団法人地盤工学会会長
- 2014年11月~ 日本品質管理学会副会長
- 2015年4月 (株)地圏環境テクノロジー 顧問・技師長

田中 覚 (新任) (立命館大学教授)

1982年3月 早稲田大学理工学部応用物理学科卒
1987年3月 早稲田大学大学院理工学研究科博士後期課程修了、理学博士 (早稲田大学)
1988年4月 早稲田大学理工学部・助手
1992年10月 福井大学工学部・助手
1996年3月 福井大学工学部・講師
2000年1月 福井大学工学部助・教授
2002年4月 立命館大学理工学部・教授
2004年4月 立命館大学情報理工学部・教授 (現在に至る)
2008年6月 日本シミュレーション学会理事 (現在に至る)
2010年6月～2012年7月 日本シミュレーション学会副会長
2011年10月 アジアシミュレーション学会連合 (ASIASIM) 評議員 (現在に至る)
2012年6月～2014年7月 日本シミュレーション学会会長
2013年9月 日本学術会議・計算科学シミュレーションと工学設計分科会ポストペタスケール高性能計算に資する可視化処理小委員会委員 (現在に至る)
2013年11月～2015年11月 アジアシミュレーション学会連合 (ASIASIM) 会長
2014年7月 可視化情報学会理事 (現在に至る)

椿 美智子 (新任) (電気通信大学教授・副学長)

1984年3月 東京理科大学理学部応用数学科卒業
1989年3月 東京理科大学大学院工学研究科経営工学専攻 博士後期課程 単位取得満期退学
1989年10月 電気通信大学 電子情報学科 助手
1990年3月 博士 (工学) 取得
1999年9月 電気通信大学 システム工学科 講師
2001年4月 電気通信大学 システム工学科 助教授
2012年4月1日～電気通信大学大学院 情報理工学研究科総合情報学専攻 教授
2014年4月1日～現在 電気通信大学 副学長 (広報担当)
2014年4月1日～現在 電気通信大学 アドミッションセンター長
2014年4月1日～現在 電気通信大学 広報センター長
2014年4月1日～現在 電気通信大学 教育研究評議会評議員
2014年4月1日～現在 電気通信大学 全学学生支援機構副機構長
2016年4月1日～電気通信大学大学院 情報理工学研究科情報学専攻 教授

坪井 康次 (新任) (東邦大学名誉教授)

1975年3月 東邦大学医学部卒業
1975年5月 第59回医師国家試験合格 (第228295号)
1975年6月 東邦大学医学部附属大森病院第2内科にて研修、入局
1980年10月 東邦大学心身医学研究室開設にともない移籍
1983年12月 医学博士 (東邦大学 乙第972号)
1987年9月 東邦大学心身医学研究室 講師
1989年9月 昭和大学医学部 非常勤講師
1991年10月 東邦大学医学部心身医学教室 助教授
1997年12月 東邦大学医学部心身医学講座 教授
2012年4月 東邦大学医学部 副医学部長
2015年3月 東邦大学医学部 退職
2015年4月 東邦大学医学部 名誉教授 現在に至る

出口 光一郎 (再任) (東北大学名誉教授)

1976年4月 東京大学工学部計数工学科 助手
1984年4月 同 講師
1984年5月 山形大学工学部情報工学科 助教授

1988年1月 東京大学工学部計数工学科 助教授
1998年10月 東北大学大学院情報科学研究科 教授
2013年4月 東北大学 名誉教授
2003年～ 横断型基幹科学技術研究団体連合 理事
2007年～2010年 同 副会長
2011年～2015年 同 会長

中西 寛子 (新任) (成蹊大学名誉教授)

1988年6月 北海道大学大学院工学研究科情報工学専攻 博士後期課程 修了 (工学博士)
1988年4月 成蹊大学経済学部 専任講師
1991年4月 成蹊大学経済学部 助教授
1997年4月 成蹊大学経済学部 教授
2012年4月 成蹊学園 常務理事
2013年3月 上記 依願退職
2013年4月 成蹊大学経済学部 名誉教授
2013年4月 統計数理研究所 客員教授

保坂 寛 (新任) (東京大学教授)

1981年 東京大学大学院工学系研究科修士課程修了
同年 日本電信電話(株)電気通信研究所
1997年 東京大学大学院工学系研究科助教授
1999年 東京大学大学院新領域創成科学研究科・教授 現在に至る

本多 敏 (新任) (慶應義塾大学教授)

1975年 東京大学工学部計数工学科卒業、同年同学科助手
1987年 同学科講師、同年熊本大学工学部生産機械工学科助教授
1990年 慶應義塾大学理工学部計測工学科助教授
1992年 アーヘン工科大学客員研究員
1998年 慶應義塾大学理工学部物理情報工学科教授
日本学術会議計測連合シンポジウム実行委員会委員 (1994-2001)、計測自動制御学会総務理事 (1997-1998)、
日本工学会監事 (1998-1999)、横断型基幹科学技術研究団体連合理事 (2009-2013)、社団法人日本鉄鋼協
会理事 (2012-2013)、日本学術会議総合工学委員会・電気電子工学委員会 IMEKO 分科会計測連合シンポ
ジウム企画運営小委員会委員長 (2012-2014)、計測自動制御学会副会長 (2014)、同会長 (2015)

六川 修一 (再任) (東京大学教授)

1978年 東京大学工学部資源開発工学科卒業
1983年 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了 (工学博士)
1983年4月 日本アイ・ビー・エム株式会社入社
サイエンスインスティテュート (現東京基礎研究所)、副主任研究員
1985年11月 東京大学工学部助教授 (資源開発工学)
2000年12月 東京大学大学院工学系研究科教授 (地球システム工学専攻)
2006年4月 同 教授 (技術経営戦略学専攻)
2010年10月 東京大学人工物工学研究センター 教授
2014年4月 東京大学大学院工学系研究科 教授 (現在に至る)

監事候補

庄司 裕子 (新任) (中央大学教授)

1989年3月 東京大学工学部卒業
1991年3月 東京大学大学院工学系研究科修士課程修了
2002年9月 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了 博士 (工学)
1991年4月～1992年12月 新日本製鐵株技術開発本部 研究員

1996年4月～2000年3月 川村学園女子大学教育学部 専任講師
2000年4月～2004年3月 川村学園女子大学教育学部 助教授
2004年4月～2007年3月 中央大学理工学部 助教授
2007年4月～2011年3月 中央大学理工学部 准教授
2011年4月～現在 中央大学理工学部 教授

2. 第2号議案:2015(平成27)年度事業報告および2016(平成28)年度事業計画案

2-1 横幹連合 2015 年度事業報告・2016 年度事業計画

(A) 2015 (平成 27) 年度事業報告

[1] 2015 (平成 27) 年度の概況

横幹連合は、設立から 12 年を経て、横断型基幹科学技術の振興の理念の主張から実践へと大きく転換をしており、設立 10 周年時に立案をした中長期活動ビジョンの実行と深化と同時に、関連機関との連携を深めて、新たな活動の創生に努めている。

基盤的な学術活動である第 6 回横幹連合コンファレンスを、2015 年 12 月 5 日 (土)・6 日 (日) に名古屋工業大学にて「サステイナブル・イノベーションのための智」をテーマに開催し、総計 108 件の発表を得て、2 日間で 180 名の参加があった。

この第 6 回横幹連合コンファレンスに併設して、2015 年度の会員学会会長懇談会を開催した。11 学会からの会長とその他の学会からのオブザーバの出席を得て、第 5 期科学技術基本計画への対応、横幹コトづくり至宝認定事業の構想などについて審議し、これらについて推進するとともに継続して検討することとした。

また、会員学会の会長等による第 4 回横幹会議を開催、オープンデータ活用に関する横幹連合の取組みについて審議した。会員学会の関心を集める話題であり、地域創生や社会認識のためのビジュアルアナリティクスなどのインキュベーションの可能性があることが確認された。

横幹連合の会誌「横幹」について、2016 年 4 月発行の第 10 巻第 1 号から電子ジャーナル化して J-STAGE から無料公開とする。2015 年度はこの発行形態を選択するに至る議論を徹底して行い、決定後は変更の準備を行った。以降、引き続き電子ジャーナルとしての会誌の定期発行を行う。

この他、会誌、ホームページを通じて幅広く社会とのコミュニケーションを行った。会誌の電子ジャーナル化に伴い、ニュースレターも含めて連携した広報や会員学会間でのコミュニケーションのあり方を、引き続き模索していく必要がある。

また、横幹の理念としての「知の統合」について、社会的認知度を高め、横幹連合の存在感を強化するため、東京電機大学出版局より「知の統合」シリーズとして書籍刊行の準備を進めた。第一弾として、2016 年 4 月 10 日に、『〈知の統合〉は何を解決するのか—モノとコトのダイナミズム』、『カワイイ文化とテクノロジーの隠れた関係』の 2 冊を刊行、引き続き、『データ・サイエンスから社会を見る(仮)』、『ロボットは人間のトモダチか(仮)』、『横幹型人材育成(仮)』などの企画が進行中である。

調査研究会については「システム統合学調査研究会」が活動を終了し、昨年度新設された「横断型人材育成プログラム調査研究会」が、横幹知の蓄積とその具体化に努力している。

横幹技術協議会とは、第 45、46 回の技術フォーラムの開催に加えて、協議会会員企業が共通的にも課題について意見交換を行う場として一昨年度に設置された横幹産学懇談会にて、産学の相互啓発に努めた。

会員の異動としては、国際数理科学協会が退会した。これにより、本日現在の会員学会数は 36 学会である。一方で、横幹連合の新たな活動方向として、学協会の連合体である防災学術連携体に参加し、防災に関する社会活動の連携と進化に務めることとなった。これを機に、新しい連携の方向性を検討し、新たな参加学会を開拓していく。

財政面では、外部資金の獲得に努力したが実現に至らなかった。コンファレンス、会誌等の事業努力により、これまでの蓄積の減耗削減を図ることが直近の課題である。

以下、2015 (平成 27) 年度の主な活動を個別に列挙する。また、主要な項目については、[2] 以下に、詳細を述べる。

- (1) 第 6 回横幹連合コンファレンスの開催
- (2) 第 7 回横幹連合コンファレンスの準備(2016 年 11 月、慶應義塾大学 (横浜市) にて開催)
- (3) 調査研究活動の推進
 - ①システム統合学調査研究会 (2013 年 7 月～2016 年 3 月)
 - ②横断型人材育成プログラム調査研究会 (2015 年 4 月～2017 年 3 月)
- (4) 2015 年度木村賞の選定
- (5) 防災学術連携体に加盟

2016年1月9日、日本学術会議にて防災学術連携体が発足し、横幹連合も加盟して発足シンポジウムにて、東日本大震災時における学会連携活動を報告した。

(6) 関連機関との連携

- ・横幹会議の開催：横幹連合が連携すべき重要機関と会員学会長とがトップレベルで意見交換をする場として横幹会議の第4回を開催した（オープンデータ活用に関する横幹連合の取組みについて審議）。
- ・横幹技術フォーラムの開催：（第45回～第46回）
- ・横幹産学懇談会の開催：新テーマ「IIoT (Industrial Internet of Things) がもたらすアウトカム経済への方向」を取り上げ、具体的な話題提供と懇談する機会を設けている。

(7) 会誌「横幹」の刊行：第9巻第1号（2015年4月）、第9巻第2号（2015年10月）を発行した。第10巻1号（2016年4月発行）より、電子ジャーナルへ移行し、J-STAGEにて無料公開。

(8) 横幹連合ニュースレター：No.41～No.44を発行し、会員学会に周知した。

[2] 第5期科学技術基本計画への対応

第5期科学技術基本計画は、システム化が主要な方向付けとなっており、横幹連合の寄与する部分は大きいとして、横幹連合としての取組みを策定するとともに、その取組みについて会員学会にアンケートを行い、総合科学技術・イノベーション会議に提言を行った。現状、基本計画への会員学会の関心は必ずしも高くはないが、超スマート社会の構想立案については一定の賛同が得られた。

[3] 第6回横幹連合コンファレンスの開催

- ・実行委員長：藤本英雄氏（名古屋工業大学）
- ・プログラム委員長：越島一郎氏（名古屋工業大学、日本経営工学会中部支部長）
- ・日程：2015年12月5日（土）・6日（日）
- ・会場：名古屋工業大学（名古屋市昭和区御器所町）
- ・メインテーマ：「知のサステイナブル・イノベーション」
- ・基調講演ほか3件の特別講演を実施、学術講演としては6パラレル36セッションを設けて総計108件の発表を得た。2日間で180名の参加があった。
- ・横幹連合会誌「横幹」10巻1号（2016年4月発行）にて、開催報告を掲載する。

[4] 第7回横幹連合コンファレンスの準備

これまでは、コンファレンスとシンポジウムを交互に隔年で行うとしていたが、両者とも広く研究発表を集めるという傾向になっているので、この内容の年次大会はコンファレンスと称するとした。2016年度の横幹連合コンファレンスを慶應義塾大学（横浜市）で開催することとし、その計画を立案した。

- ・日程：2016年11月18日（金）・19日（土）・20日（日）
- ・会場：慶應義塾大学日吉キャンパス
- ・メインテーマ：つながるヒト・モノ・コミュニティ～コトづくりの社会実装～

[5] 2015年度木村賞表彰

第6回横幹連合コンファレンスでの発表から次の1件を2016年度定時総会にて表彰するとした。

受賞者：佐藤彰洋氏（京都大学）

受賞論文：「経済社会データおよび環境データを用いた空間評価指標の大規模計算:地域メッシュ統計の利活用」

[6] 会員学会、横幹協議会と連携した活動

・第4回横幹会議

オープンデータ活用に関する横幹連合の取組みについて審議。

日時：2016年3月9日（水）

場所：筑波大学東京キャンパス

会員学会の関心を集める話題であり、地域創生や社会認識のためのビジュアルアナリティクスなどのインキュベーションの可能性があることが確認された。

・横幹技術フォーラムの開催

①第 45 回 システムデザイン力を展望する

日時：2015 年 7 月 2 日（水）13：00－17：20

②第 46 回 第 6 次産業への取り組み-複数システムの連携による価値構築

日時：2015 年 11 月 7 日（金）13：00－17：05

・2015 年度開催横幹産学懇談会

2015 年度より新テーマ「IIoT（Industrial Internet of Things）がもたらすアウトカム経済への方向」を開始。

第 1 回 「GE のインダストリアル・インターネット戦略」

日時：2016 年 1 月 27 日 16：00－18：00

演題：GE のインダストリアル・インターネット戦略

[7] 会誌「横幹」の電子ジャーナル化

会誌「横幹」は、電子ジャーナルとして J-STAGE から無料公開する。

バックナンバーから、順次、同ページにて公開を始めている。連合の会員学会の会員の皆様に広く読んでいただくためと、ページ数や年間発行回数や図表の形態・サイズ等の制限を緩和するためであり、より興味を持っていただく紙面を目指す。これに伴い、次号 10 巻 1 号(2016 年 4 月発行)より、冊子体（印刷製本体）による発行は停止し、完全にどなたでも無料にて閲覧できる形に移行する。

(B) 2016（平成 28）年度事業計画案

[1] 2016（平成 28）年度の方針

前年度に引き続き、2013～4 年度に骨子を策定し具体化を図った「横幹連合中長期活動ビジョン」に基づき、横幹理念の実践への展開期との認識の下、単独の学会では解決が難しい課題に対する研究プロジェクトに積極的に取り組んで、社会への貢献と学術の深化に努める。横幹連合のような広い分野の学会が連携して対応することが求められている課題に取り組むことで、新しい形での、また、時代に即した学会活動の展開を通して、横幹科学技術、横幹連合そのものの成長へと繋げていく。

具体的には以下の事項を推進する。

(1) 調査研究事業

中長期活動ビジョンに基づき、具体的な行動計画へと展開する。第 7 回横幹連合コンファレンスを開催して価値創造につながるコトづくりとその社会実装についての議論を行うと同時に、企画・事業委員会、学術・国際委員会を中心に立案した横幹科学技術の研究推進の基本的な枠組みに基づいて、社会要請の高いシステム統合、人材育成等の調査研究会の展開を図る。これらの推進の的確化・迅速化のために、横幹会議を通じて産官とのトップレベルの対話に努める。

(2) プロジェクト事業

社会的課題に関する国家プロジェクト等への積極的参画、産業界の横幹的課題解決のための産学連携プロジェクトを推進する。また、そのインキュベーションとして、継続的に横幹産学懇談会を開催する。

(3) 普及啓蒙事業

会誌「横幹」を電子ジャーナル発行とし会員学会の会員をはじめ広いサーキュレーションを得て、横幹科学技術の学術面での普及啓蒙を図る。また、社会的課題の横幹技術による解決をテーマにした横幹技術フォーラムの開催を行う。

横幹の理念としての「知の統合」について、社会的認知度を高め横幹連合の存在感を強化するため、「知の統合学」シリーズ書籍出版の企画を進める。

(4) 広報事業

ホームページ、ニュースレター等による広報を行う。会員学会会員とのコンタクトの強化に努めると同時に、新しい広報手段の開拓を含め、会員学会活動の企業への横断的な情報提供の場づくりにも努力する。

(5) 横幹コトづくり至宝の認定活動

広い分野において横幹連合として指針とすべき「コトづくり」を保有していると考え、これらを一定のルールで取り上げ、横幹コトづくり至宝として認定し、世の中にアピールすると同時に大学教育にも反映するとの構想を推進する。

(6) その他

持続可能な事業体制への転換を目指す。このために、受益者に関する見直しを行い、新たな社会との関係づくりを構想する。

[2] 2016（平成28）年度事業計画

2016（平成28）年度横幹連合事業計画

事業名	事業内容	実施 予定 日時	受益対象者 の範囲及び 予定人数
調査研究・企画事業 (1)	<p>＜中長期活動ビジョンの具体化と行動展開＞</p> <p>2014年度に策定した中長期活動ビジョンの枠組みに沿って、これを具体的な行動として展開する。</p>	通年	学・産・官
調査研究・企画事業 (2)	<p>＜第7回横幹連合コンファレンス＞</p> <p>学界・産業界から広く参加を募り、横幹理念の実践を目指して、価値創造につながるコトづくりに係る広い分野の知の交流をはかり、新たな実践活動の第一歩とする。</p>	11月	学界・産業界から広く参加を募る (250名)
調査研究・企画事業 (3)	<p>＜第5期科学技術基本計画への対応＞</p> <p>第5期科学技術基本計画は、システム化が主要な方向付けとなっており、横幹連合の寄与する部分は大きいとして、横幹連合としての取り組みを策定するとともに、その取組みについて会員学会との連携の拡大について努力する。</p>	通年	会員学会を中心とした 学界
調査研究・企画事業 (4)	<p>＜オープンデータ活用に関する横幹連合の取組み＞</p> <p>会員学会の関心を集める話題であり、地域創生や社会認識のためのビジュアルアナリティクスなどのインキュベーションの可能性があることが確認されており、今後、学会連携で取り組む体制を組織化していく。</p>	通年	会員学会を中心とした 学界
調査研究・企画事業 (5)	<p>＜調査研究会＞</p> <p>横幹的アプローチを必要とする社会的な課題や産業界の課題を取り上げ、複数分野の専門家によるチームを結成し、調査研究を行う。成果は報告書・フォーラム等で一般に公表し、場合によっては、プロジェクト事業へと展開する。</p>	通年	会員学会を中心とした 学界
調査研究・企画事業 (6)	<p>＜横幹会議の定着と関連機関との連携深耕＞</p> <p>産官とのトップ会談の場である横幹会議の定着に努力する。並行して、継続的に科学技術振興機構、統数研、産総研などの研究推進機関と連携する。</p>	通年	学・官・産
プロジェクト事業 (1)	<p>＜社会プロジェクト活動＞</p> <p>社会的課題に関する国家プロジェクト等を受託・推進し、横幹科学技術の有用性を立証するとともに、今後の取組み課題を抽出する。</p>	通年	会員学会を中心とした 学界
プロジェクト事業 (2)	<p>＜産業プロジェクト活動：インキュベーションとプロジェクト化＞</p> <p>横幹産学懇談会を通じて産業界との緩やかな対話を継続して行い、産業界が求める「実問題」に応える横幹科学技術を明らかにし、解決活動への結び付けを行う。</p>	通年	産・学
普及啓蒙事業 (1)	<p>＜会誌「横幹」第10巻1, 2号の発行＞</p> <p>横幹科学技術を様々な角度から掘下げ、多分野からの理解を深める会誌を刊行する。</p>	4月 10月	一般者

普及啓蒙事業 (2)	<p style="text-align: center;">＜横幹技術フォーラムの開催＞</p> <p>主に産業界を対象に、横幹科学技術の先端研究成果を第一線で活躍する研究者が解説する。また、産学の対話の場としても活用する。</p>	隔月	産業界の中核技術者
広報事業 (1)	<p style="text-align: center;">＜ホームページ＞</p> <p>ホームページを管理運営し、横幹科学技術の解説、イベントの案内、技術討論、会員学会との交流などを行う。企業に向けての会員学会の横断的な情報提供の場づくりに努力する。</p>	通年	会員学会・一般者
広報事業 (2)	<p style="text-align: center;">＜パンフレット・ニュースレター等による広報＞</p> <p>横幹連合の活動、横幹連合会員学会の活動の紹介、各種イベントの周知・広報等を行う。会員学会会員とのコンタクト強化に努める。新しい広報手段の(SNS, ゆるキャラなど) 開拓を進め、さらに、これまでの蓄積を素材とする出版についても検討する。</p>	通年	学界・会員学会・一般者
その他	<p style="text-align: center;">＜事業運営の体質強化・転換＞</p> <p>財務状況の抜本的な改善策を立案し、持続可能な事業体制への転換を目指す。このために、受益者に関する見直しを行い、新たな社会との関係づくりを構想する。事務の効率化、経費削減に努める。</p>	通年	会員学会・横幹連合支援者

2-2 常置委員会 2015 年度事業報告・2016 年度事業計画

2-2-1 企画・事業委員会

(A) 2015 年度の事業報告

委員長 (理事)	船橋 誠壽	(北陸先端科学技術大学院大学、計測自動制御学会)
副委員長 (理事)	六川 修一	(東京大学、日本リモートセンシング学会)
委員 (理事)	岩崎 学	(成蹊大学、応用統計学会)
委員 (理事)	清野 武寿	((株)東芝、研究・イノベーション学会)
委員 (理事)	遠藤 薫	(学習院大学、社会情報学会)
委員 (理事)	鈴木 久敏	(情報・システム研究機構、日本オペレーションズ・リサーチ学会)
委員 (理事)	藤本 英雄	(名古屋工業大学、第 6 回横幹コンファレンス実行委員長)
委員 (理事)	皆川健太郎	(大阪工業大学、日本経営工学会)
委員 (監事)	木村 忠正	(電気通信大学、日本信頼性学会)
委員	安藤英由樹	(大阪大学、日本バーチャルリアリティ学会)
委員	板倉 宏昭	(香川大学、日本経営システム学会)
委員	神徳 徹雄	((国研)産業技術総合研究所、計測自動制御学会)
委員	倉橋 節也	(筑波大学、計測自動制御学会)
委員	土谷 隆	(政策科学大学院大学、日本統計学会)
委員	本多 敏	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
委員	山本修一郎	(名古屋大学)

1. 委員会開催

隔月で委員会を開催し、第 6 回横幹連合コンファレンスの開催推進および 2015 年度会員学会会長懇談会の開催、第 7 回横幹連合コンファレンスの計画立案、第 4 回横幹会議の企画立案と推進、新規企画事項として横幹コトづくり至宝認定事業の構想立案、第 5 期科学技術基本計画への対応立案等を行った。

2. 第 6 回横幹連合コンファレンスの開催

藤本英雄委員に実行委員長を務めていただき(プログラム委員長:名工大・越島一郎氏)、2015 年 12 月 5 日(土)・6 日(日)、名古屋工業大学にて「サステイナブル・イノベーションのための智」をテーマに開催、大島伸一氏(国立長寿医療研究センター名誉総長)の基調講演ほか 3 件の特別講演を実施、学術講演としては 6 パラレル 36 セッションを設けて総計 108 件の発表を得た。2 日間で 180 名の参加があった。

3. 2015 年度会員学会会長懇談会の開催

第 6 回横幹連合コンファレンスに併設して、2015 年度の会員学会会長懇談会を開催した。11 学会からの出席を得て、横幹コトづくり至宝認定事業の構想、第 5 期科学技術基本計画への対応について審議し、これらについてさらに継続して検討することとした。

4. 第 7 回横幹連合コンファレンスの計画

本多 敏委員に 2016 年度の横幹連合コンファレンスの実行委員長を務めていただきとし、その計画を立案した(これまでは、コンファレンスとシンポジウムを交互に隔年で行うとしていたが、両者とも広く発表を集めるという傾向になっているので、この内容の年次大会はコンファレンスと称するとした)。

- ・日程:2016 年 11 月 18 日(金)・19 日(土)・20 日(日)
- ・場所:慶應義塾大学日吉キャンパス
- ・実行委員会主要構成 実行委員長:本多 敏氏(慶大・元横幹理事)、プログラム委員長:西村秀和氏(慶大・横幹理事)、委員:松岡由幸氏(慶大・横幹理事)、滑川 徹氏(慶大・計測自動制御学会)、そのほか企画・事業委委員を実行委員会委員と想定
- ・テーマ:つながるヒト・モノ・コミュニティ〜コトづくりの社会実装〜

5. 第 4 回横幹会議の開催

岩崎 学委員に企画立案いただき、オープンデータ活用に関する横幹連合の取組みについて審議。

- ・日程：2016年3月9日（水）
- ・場所：筑波大学東京キャンパス
- ・招聘者：坂田一郎氏（東京大学政策ビジョン研究センター教授）、會田雅人氏（総務省統計局長）
- ・会員学会の関心を集める話題であり、地域創生や社会認識のためのビジュアルアナリティクスなどのインキュベーションの可能性があることが確認された。

6. 新規事業企画

（1）横幹コトづくり至宝認定事業構想立案

六川修一委員を中心に、横幹連合として指針とすべき「コトづくり」を保有していると考え、これらを一定のルールで取り上げ、世の中にアピールすると同時に大学教育にも反映するとの構想を立案した。会員学会にアンケートを行い、ポジティブな反応を得た。

（2）第5期科学技術基本計画への対応

船橋誠壽委員長を中心に、第5期科学技術基本計画は、システム化が主要な方向付けとなっており、横幹連合の寄与する部分は大きいとして、その取組みについて会員学会にアンケートを行った。現状、基本計画への会員学会の関心は必ずしも高くはないが、超スマート社会の構想立案への取組みについては一定の賛同が得られた。

7. その他

- ・2014年度に立案した横幹連合の中長期ビジョンの具体化の活動として横断型人材育成プログラム調査研究会（本多 敏主査）が2015年度に発足、この進捗について報告を得た。
- ・2014年度開催第3回横幹会議のフォローアップとして、学術・国際委とともに、国際協力機構（JICA）との連携活動について、JICAと意見交換した。

（B）2016年度の事業計画

1. 委員会開催

隔月で委員会を開催し、横幹連合年次大会開催推進・企画立案、新規事業企画事項の推進、横幹会議の開催と新規企画事項の抽出等を行う。

2. 第7回横幹連合コンファレンス開催推進（2016年度会員学会会長懇談会の開催）

本多実行委員長の下で、コンファレンスの準備、開催を行う（日程：2016年11月18日～20日、開催地：慶應義塾大学日吉キャンパス）

3. 新規事業企画の推進

横幹コトづくり至宝認定事業、第5期科学技術基本計画への対応、第4回横幹会議で得られたアクションプラン等の推進

4. 第5回横幹会議の開催

官公庁や産業界の指導的な方々と会員学会会長との意見交換の場である横幹会議を開催し、会員学会にフィードバックすると同時に、横幹連合の取組み課題の抽出を行う。

2-2-2 総務・会員委員会

（A）2015年度の事業報告

委員長	（理事）	山崎 憲	（日本大学、日本シミュレーション学会）
委員	（理事）	庄司 裕子	（中央大学、日本感性工学会）
委員	（理事）	岩崎 学	（成蹊大学、応用統計学会）
委員	（理事）	三藤 利雄	（立命館大学、日本MOT学会）
委員	（理事）	大場 允晶	（日本大学、日本経営工学会）

1. 予算健全化施策の立案と推進

予算健全化のために、事業経費の見直しを行った。会誌「横幹」の出版費用が定常的に大きな赤字を生んでいることを踏まえ、昨年に引き続き、会誌の電子化に向けての検討を会誌編集委員会に付託し、電子化を行うこととなった。今年単年度で、コンファレンスが黒字となり収支のバランスが取れたが、今後もこれらの事業の在り方の検討が必要である。また中長期的には受託事業などのプロジェ

クトの確保など引き続き予算の健全化のための努力が必要である。

2. 事務局体制の安定化

本年度は事務局員の交代があり、引継ぎが十分に行えなかったことなど反省すべき点が多々あった。これらを踏まえて事務局体制の安定化に向けた検討が必要である。また、懸案だった経理ソフトを最新の一般的な経理ソフトを導入して経理処理の効率化を図ることができた。

3. 会員学会の増強

2016年3月9日に第4回横幹会議が行われ、多数の学会から会長または代議員の出席を受けて横幹連合の果たすべき役割についても議論された。会員学会の会員は横幹設立時は延べ6万人であったが、今では5万人弱であり、各学会はそれぞれ危機感を持っている。会員減を含め共通の危機意識とその対策について情報を共有するなどの活動が横幹に望まれていると考えられることから、期待に応える活動をしてゆく必要がある。広報委員会と連携して横幹連合に参画した場合の意義を明確にして社会科学系学会の参加を積極的に呼びかける方策の検討が必要である。また、教育機関サポーター制度を設けるなどの検討も必要である。

(B) 2016年度の事業計画

1. 予算健全化策の立案と推進

予算健全化のために、引き続き具体的な施策立案と推進に注力する。この一環として受益者を見直し、新しい社会との関係づくりについて検討する。また、個人会員や教育機関サポーター制度などを検討して財政の増強を図る。

2. 会員学会の増強

現在の会員学会間の情報共有や意見交換を積極的に行い、学会同士で情報共有や連携を行う場として「横幹連合の意義」を明確化するための取り組みを推進する。また、社会科学系学会の新規参加呼びかけを積極的に推進する。

2-2-3 学術・国際委員会

(A) 2015年度の事業報告

委員長	(理事)	遠藤 薫	(学習院大学、社会情報学会)
副委員長	(理事)	六川 修一	(東京大学、日本リモートセンシング学会)
委員	(理事)	平原 裕行	(埼玉大学、可視化情報学会)
委員	(理事)	船橋 誠壽	(横幹連合、計測自動制御学会)
委員	(理事)	松岡 猛	(宇都宮大学、日本信頼性学会)
委員	(理事)	松岡 由幸	(慶應義塾大学、日本デザイン学会)
委員		兼田 敏之	(名古屋工業大学、日本シミュレーション&ゲーミング学会)
委員		倉橋 節也	(筑波大学、計測自動制御学会)
委員		櫻井 茂明	(東芝ソリューション(株))
委員		高橋 大志	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
委員		本多 敏	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
委員		松井 正之	(神奈川大学、日本経営工学会)
委員		水川 眞	(芝浦工業大学、日本ロボット学会)

本委員会の使命として、横幹科学技術の研究推進に係る基本的な枠組み作りを行い、これを調査研究会へと展開をはかること、とくに、システム統合等の社会要請の高い課題への取り組みを重視することを設定し、以下の活動を行った。

1. 学術・国際委員会の開催

- ・本年度は主としてメール審議で開催に替えた。
- ・関連学会の行事について協賛などの審査を行った。

2. 調査研究会の遂行

一昨年度立ち上げた「システム統合学調査研究会（主査：遠藤 薫、期間：2013年7月～2016年

3月)」を推進した。統合学の現状と今後を俯瞰する第45回横幹技術フォーラム「システムデザイン力を展望する」を、2015年7月2日に開催した。

同じく昨年度立ち上げた「横断型人材育成プログラム調査研究会（主査：本多 敏、期間：2015年3月～2017年3月）」を推進した。横幹〈知の統合〉シリーズの1冊として「人材育成」に関する成果をまとめる準備を進めた。

3. 横幹〈知の統合〉シリーズの刊行

横幹の理念としての「知の統合」について、社会的認知度を高め、横幹連合の存在感を強化するため、2014年12月、遠藤委員長が出版社（東京電機大学出版局）と交渉した結果、「知の統合」シリーズとして刊行することが決定した。

第一弾として、2016年4月10日に、『<知の統合>は何を解決するのか—モノとコトのダイナミズム』『カワイイ文化とテクノロジーの隠れた関係』の2冊を刊行予定である。

引き続き、『データ・サイエンスから社会を見る(仮)』『ロボットは人間のトモダチか(仮)』『横幹型人材育成(仮)』などの企画が進行中である。

4. 横幹国際交流活動に関する検討

横幹連合として、会員学会の国際活動をどのような形でサポートできるかを検討した。

昨年度に引き続き、JICAなどの国際活動団体と検討を行った。

5. 木村賞

受賞者選考に関して、会員学会ならびに総合シンポジウム参加者への木村賞設置のお知らせや、選考委員の選任などの支援を行った。

(B) 2016年度の事業計画

2015年度に立案した横幹科学技術の枠組みをベースに、以下を行う。

1. 調査研究会の推進はもとより、新調査研究会の立上げに努める
2. 関連学会との連携を強化するため、協賛・共催・後援などの審査を行う
3. 文系学会との関係づくりに関し、シンポジウムなどをピークルとして試行する
4. 「知の統合」シリーズ図書の継続的企画
5. 横幹国際交流活動の具体化と推進を行う
6. 木村賞の選考の支援を行う

2-2-4 産学連携委員会

(A) 2015年度の事業報告

委員長	(理事)	大場 允晶	(日本大学、日本経営工学会)
副委員長	(理事)	藤井 享	((株)日立製作所、経営情報学会)
委員	(理事)	木全 晃	(香川大学、日本経営システム学会)
委員	(理事)	船橋 誠壽	(横幹連合、計測自動制御学会)
委員	(理事)	杉本 謙二	(奈良先端科学技術大学院大学、システム制御情報学会)
委員	(理事)	鈴木 久敏	(情報・システム研究機構、日本オペレーションズ・リサーチ学会)
委員	(理事)	皆川健多郎	(大阪工業大学、日本経営工学会)
委員	(理事)	西村 秀和	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
委員	(理事)	佐藤 誠	(東京工業大学、日本バーチャルリアリティ学会)
委員(協議会監事)		平井 成興	(千葉工業大学、日本ロボット学会)
委員	(幹事)	飯島 俊文	(Q&T マネジメント研究所、日本経営工学会)
委員	(幹事)	椿 茂実	((株)クエスト、経営情報学会)
委員		梅田 豊裕	((株)神戸製鋼所、システム制御情報学会)
委員		大場光太郎	((国研)産業技術総合研究所、日本ロボット学会)
委員		櫻井成一朗	(明治学院大学、社会情報学会)
委員		渡邊 均	(東京理科大学、日本信頼性学会)
委員		大野 富彦	(群馬大学、経営情報学会)
委員		加藤 俊一	(中央大学、日本感性工学会)

委員 桑原 祐史 (茨城大学、日本リモートセンシング学会)

知の統合による産学連携の実現を目指し、具体的なトピックとその実装方法について議論を行う。これを行う場として、横幹技術協議会との連携による横幹技術フォーラムを企画・実行する。また、2013年度より横幹連合技術協議会と共同で始めた横幹産学懇談会を、2015年度から新テーマ「IIoT (Industrial Internet of Things) がもたらすアウトカム経済への方向」を取り上げ、具体的な話題提供から懇談する機会を設け、継続している。さらに、必要に応じて横幹コンファレンスやシンポジウムでの特別セッションの企画・実行なども行う。

1. 委員会開催

2015年度は下記を開催した。

- 第1回 2015年5月19日(月) 15:30-17:00 日本大学経済学部本館2階 中会議室2
議題: 2015年度活動方針、横幹協議会との連携状況、横幹技術フォーラム、横幹産学懇談会の検討他
- 第2回 2015年9月28日(月) 15:30-17:30 日本大学経済学部本館2階 中会議室2
議題: 横幹技術フォーラムの報告と企画検討、横幹産学懇談会の方向検討他
- 第3回 2015年11月26日(金) 15:30-17:00 日本大学経済学部本館2階 中会議室2
議題: 横幹技術フォーラムの報告と企画検討、横幹産学懇談会の方向検討他
- 第4回 2016年1月27日(水) 14:30-15:30 日本大学経済学部本館2階 中会議室2
議題: 横幹技術フォーラムの報告と企画検討、横幹産学懇談会の検討他
- 第5回 2016年3月23日(水) 15:30-17:30 日本大学経済学部本館2階 中会議室2
議題: 次年度活動方針の検討、横幹技術フォーラムの検討、横幹産学懇談会の検討他

2. 2015年度開催横幹技術フォーラム概要

第45回 システムデザイン力を展望する

日時: 2015年7月2日(水) 13:00-17:20
会場: 日本大学 経済学部 7号館 2階講堂 (JR 水道橋)
司会: 船橋 誠壽 (JAIST シニアプロフェッサー)
講演1 「デザイン思考 —システム構想力のひとつの姿—」
田浦 俊春(神戸大学 教授)
講演2 社会イノベーション事業におけるデザインアプローチ
古谷 純 ((株)日立製作所 主管デザイナー)
講演3 システムデザインにおけるシステムの構造分析と俯瞰
青山 和浩 (東京大学 教授)
講演4 システム合成のためのスーパーストラクチャー
長谷部 伸治 (京都大学 教授)
パネルディスカッション
講演者全員

第46回 第6次産業への取り組み-複数システムの連携による価値構築

日時: 2015年11月7日(金) 13:00-17:05
場所: 日本大学 経済学部 7号館 7091教室 (JR 水道橋)
司会: 藤川 裕晃 (東京理科大学 教授)
講演1 第6次産業の課題と複数システム連携による価値構築
藤川 裕晃 (東京理科大学)
講演2 日本の農業の現状と提案〜コメが人類を救う
尾ノ井 憲三 (元ヤンマー(株))
講演3 第6次産業とICT活用
堀川 三好 (岩手県立大学)
講演4 農産物の流通の在り方

野見山 敏雄 (東京農工大学)
講演 5 植物工場のエンジニアリング
山中 宏夫 (大成建設(株))

3. 2015 年度開催横幹産学懇談会概要

横幹技術協議会との連携活動として、2013 年度より開始。2015 年度より新テーマ「IIoT (Industrial Internet of Things) がもたらすアウトカム経済への方向」を開始。

第 1 回 「GE のインダストリアル・インターネット戦略」

日 時：2016 年 1 月 27 日 16 時-18 時

会 場：日本大学 経済学部 本館 2F 中会議室 2

話題提供：田中豊人氏 (日本 GE 株式会社専務執行役員)

出席者：話題提供者+協議会会長、委員長、横幹会長、会員企業ほか、全 15 名

演題：GE のインダストリアル・インターネット戦略

概要：GE が提唱する「インダストリアル・インターネット」とは何か？また製造業である GE がなぜソフトウェア事業に注力しているかの背景、全体戦略、事例等について

(B) 2016 年度の事業計画

引き続き、知の統合による産学連携の実現を目指し、具体的なトピックとその実装方法について、議論を行う。これを行う場として、横幹技術協議会との連携による横幹技術フォーラムと横幹産学懇談会を継続して、企画・実施する。

1. 委員会開催

隔月で委員会を開催し、第 47 回以降の横幹技術フォーラムの企画立案と実施結果のフォローを行う。また、横幹技術協議会実行委員会と産業の芽となる共同開発の可能性を模索してゆくための横幹産学懇談会の企画を審議する。

2. 横幹技術フォーラムの開催推進

横幹技術協議会との連携による第 47 回以降の横幹技術フォーラムを企画・実施する。

3. 横幹産学懇談会の計画立案

2015 年度より始めた新テーマ「IIoT (Industrial Internet of Things) がもたらすアウトカム経済への方向」の 2 回目以降を企画・実施する。

2-2-5 広報・出版委員会

(A) 2015 年度の事業報告

委員長	(理事)	青柳 秀紀	(筑波大学、日本生物工学会)
委員	(理事)	佐藤 誠	(東京工業大学、日本バーチャルリアリティ学会)
委員	(理事)	庄司 裕子	(中央大学、日本感性工学会)
委員	(理事)	平原 裕行	(埼玉大学、可視化情報学会)
委員	(理事)	藤井 享	((株)日立製作所、経営情報学会)
委員	(理事)	松岡 由幸	(慶應義塾大学、日本デザイン学会)
委員		有馬 昌宏	(兵庫県立大学、経営情報学会)
委員		武田 博直	(VR コンサルタント、日本バーチャルリアリティ学会)
委員		小山 慎哉	(函館工業高等専門学校、日本バーチャルリアリティ学会)
委員		岡田 昌史	(東京工業大学、日本ロボット学会)
委員		高橋 正人	((国研)情報通信研究機構、計測自動制御学会)

広報・出版委員会では、横幹連合の知名度を高めるための活動を実施してきた。国内向けの活動として、本年度も定期的なニューズレター (No.41~No.44) の発行を行った。さらに、横幹連合に親しみを持ってもらうため、広報活動の一環として作成した、横幹のキャラクター (ゆるキャラ) の活用

を開始した。また、会誌「横幹」の J-STAGE への移行に伴う、ニュースレターの内容や広報・出版委員会の今後の在り方について論議し、方針を立てた。

1. 広報・出版委員会の開催

第1回広報・出版委員会 2015年7月11日 17:00~19:00

筑波大学 東京キャンパス文京校舎 1階 103 共用会議室

議題：委員会の2015年度活動の検討

第2回広報・出版委員会 2015年12月11日 10:00~12:00

筑波大学 東京キャンパス文京校舎 1階 103 共用会議室

議題：会誌「横幹」の J-STAGE への移行に対する広報・出版委員会としての対応

第3回広報・出版（会誌編集合同）委員会 2016年2月29日 13:00~15:00

日本大学経済学部本館2階 中会議室2

議題：会誌「横幹」の J-STAGE への移行に対するニュースレターの改編および委員会の対応

2. ニュースレターの発行

広報・出版委員会では、年に4回、定期的にホームページにて、ニュースレターを発行している。コンテンツは、巻頭メッセージ、活動紹介、会員学会の横顔、イベント紹介であり、毎号、内容の濃い話題を他分野の人にも分かりやすく紹介している。また、横幹的な側面を強調するように工夫を図る検討を行った。

3. 横幹キャラクター（ゆるキャラ）の完成と活用

横幹連合の広い層への PR を目指し、昨年度に作成した“ゆるキャラ”に、横幹連合の“ゆるキャラ”であることがわかるように、“横幹連合”の文字を入れたデザインを完成させた。横幹連合の“ゆるキャラ”を会誌「横幹」の誌面および横幹連合の HP に掲載した。

4. ニュースレターの改編

会誌「横幹」の J-STAGE への移行（電子化）に伴いニュースレターのあり方を検討し、改編する（イベントスケジュール・紹介、署名記事による「参加報告」や「解説記事」を中心にすることとなった。改編は2016年5月号より開始する。

(B) 2016年度の事業計画

横幹連合では、多くの活動を行っている。それぞれの開催情報や成果を適切なタイミングで、関係者をはじめ社会に提供することが重要である。広報・出版委員会では、ホームページ、パンフレット、書籍を通じて、その活動を行うことを役割としている。新年度は、下記の活動について検討をしていく予定である。

1. 広報活動の実施

- (1) 会誌「横幹」の J-STAGE への移行（電子化）に伴い改編するニュースレターの発行（会誌「横幹」との相乗的、相互的な連携も含む）
- (2) 和文・英文ホームページの更新と充実について検討を行う。
- (3) ゆるキャラの活用
- (4) これまで蓄積してきたコンテンツの活用について検討を行う。

2-2-6 会誌編集委員会

(A) 2015年度の事業報告

委員長	(理事)	松岡 猛	(宇都宮大学、日本信頼性学会)
副委員長	(理事)	三藤 利雄	(立命館大学、日本 MOT 学会)
委員	(理事)	庄司 裕子	(中央大学、日本感性工学会)

委員	(理事)	青柳 秀紀	(筑波大学、日本生物工学会)
委員	(理事)	水野 毅	(埼玉大学、精密工学会)
委員	(理事)	木全 晃	(香川大学、日本経営システム学会)
委員	(理事)	杉本 謙二	(奈良先端科学技術大学院大学、システム制御情報学会)
委員		穴太 克則	(芝浦工業大学、日本オペレーションズ・リサーチ学会)
委員		玉置 久	(神戸大学、システム制御情報学会)
委員	(理事)	藤井 亨	((株)日立製作所、日本情報経営学会)
委員		加藤 健郎	(東海大学、日本デザイン学会)
委員		金子 勝一	(山梨学院大学、日本経営システム学会)
委員		渚 勝	(千葉大学、国際数理科学協会)
委員		三宅 美博	(東京工業大学、計測自動制御学会)

横幹連合の活動記録および会員学会分野における横幹的事例の紹介を中心に、会誌の編集・発行を行った。内容は以下の通りである。また、2月の理事会において、電子ジャーナル化に対応して会誌投稿規程を一部改定した。2月29日には広報・出版委員会と合同で委員会を開き、電子ジャーナル化にとまなうニュースレターとの今後の連携について方針を確認した。

1. 会誌第9巻第1号の発行(2015年4月発行)

巻頭言 たて型/よこ型・再訪

出口光一郎

原著論文

グローバル・リーダーシップ・コンピテンシーの学習メカニズムに関する探索的研究。

キャロライン・ベントン, 永井裕久, 椿 広計, 木野泰伸

論説 感性価値としての「かわいい」

大倉典子

解説 横幹中長期ビジョン2014について

鈴木久敏, 山本修一郎, 本多 敏, 庄司裕子

ミニ特集「リスクマネジメントと経営高度化」

統合リスクマネジメントのアプローチとケーススタディー (リスクと経営戦略)

田中久司

統合報告と経営高度化の関連性 —サステナブル経営の観点から—

石島 隆

イノベーション・プロセス・テクノロジー序説 連環データ分析と目的工学からの

アプローチ

唐澤英安, 嵯峨根勝郎, 唐澤英長, 栗山 晃, 小林 稔

トピック

第5回横幹連合総合シンポジウム開催報告

川中孝章

木村賞第三回授賞報告 (2014年度)

遠藤 薫

会員学会紹介

国際数理科学協会

植松康祐

経営を工学する：日本経営工学会

河野宏和

日本計画行政学会の活動内容

山本佳世子

編集後記

穴太克則

2. 会誌第9巻第2号の発行(2015年10月発行)

巻頭言 ミニ特集「ロボット活用社会の新潮流」について

平井成興

ミニ特集「ロボット活用社会の新潮流」

協働ロボット(コボット)が拓く生産と生活の革新 ～人間・ロボット共存の新時代～

佐藤知正

病院まるごとロボット ～ロボット革命へのチャレンジと、その実際～

北野幸彦

インターネットとロボットが融合したIoT 研究開発とグローバル・イノベーション

創出戦略

萩田紀博

原著論文

テキストマイニングを用いた企業・業種分析の一指標 ～2010年と2012年の環境

報告書の場合～

中邨良樹, 高林直樹, 大場允晶, 山本久志, 丸山友希夫

四国地域における環境経営に関する実証研究 —組織能力を手掛かりにして—

会員学会紹介
行動経済学会の活動紹介
編集後記

木全 晃, 板倉宏昭
大竹文雄, 大垣昌夫
松岡 猛

(B) 2016 年度の事業計画

会誌第 10 巻第 1 号から電子ジャーナル化して J-STAGE から無料公開とする発行形態とする。以降、引き続き電子ジャーナルとしての会誌の定期発行を行う。

1. 会誌第 10 巻第 1 号の発行 (2016 年 4 月発行予定)

巻頭言 世界に先駆けた社会を描く構想力 船橋誠壽
ミニ特集「システムデザイン力を展望する」
現代デザイン思考-技術と意味の時代の創造性- 田浦俊春
社会イノベーション技術におけるデザインアプローチ 古谷 純
製品システム設計におけるシステムの構造分析とマネジメント
青山和浩、大泉和也、古賀 毅
スーパーストラクチャを用いたプロセス合成 長谷部伸治

原著論文

A Revised Algorithm for Competitive Bidding Price Decision under Limited Engineering Man-Hours in EPC Projects 石井信明、高野祐一、村木正昭

トピック

木村賞第四回授賞報告 (2015 年度) 遠藤 薫
第 6 回横幹連合コンファレンス開催報告 藤本英雄、越島一郎、横山淳一、坂口正道
横幹<知の統合>シリーズ創刊 遠藤 薫

会員学会紹介

可視化情報学会 平原裕行
編集後記 松岡 猛

2. 会誌第 10 巻第 2 号の発行 (2016 年 10 月発行予定)

2-3 調査研究会 2015 年度活動報告・2016 年度活動計画

2-3-1 システム統合学調査研究会 (終了)

(A) 2015 年度の活動報告

設置期間	2013 年 7 月～2016 年 3 月	
幹事学会	社会情報学会	
主査	遠藤 薫	(学習院大学、社会情報学会)
副主査	大久保寛基	(東京都市大学、日本経営工学会)
幹事	船橋 誠壽	(北陸先端科学技術大学院大学、計測自動制御学会)
委員	兼田 敏之	(名古屋工業大学、日本シミュレーション&ゲーミング学会)
	久保田直行	(首都大学東京、計測自動制御学会)
	倉橋 節也	(筑波大学、計測自動制御学会)
	櫻井 茂明	(東芝ソリューション(株))
	玉置 久	(神戸大学、システム制御情報学会)
	辻 洋	(大阪府立大学、システム制御情報学会)
	出口光一郎	(東北大学、計測自動制御学会)
	西田 佳史	((国研)産業技術総合研究所、日本ロボット学会)
	松井 正之	(神奈川大学、日本経営工学会)
	水川 真	(芝浦工業大学、日本ロボット学会)

六川 修一 (東京大学、日本リモートセンシング学会)

2014年度までの産学連携委員会、横幹技術協議会との連携活動を踏まえ、まとめとして、以下のとおり、横幹技術フォーラムを開催し、さらに、この発表をもとに会誌「横幹」にミニ特集として解説集が掲載された。

1. 第45回横幹技術フォーラム

- ・タイトル：システムデザイン力を展望する
- ・日程・会場：2015年7月2日・日本大学経済学部
- ・プログラム：

総合司会：船橋誠壽（北陸先端科学技術大学院大学シニアプロフェッサー）
田浦俊春（神戸大学教授）：デザイン思考—システム構想力のひとつの姿—
古谷 純（(株)日立製作所主管デザイナー）：社会イノベーション事業におけるデザインアプローチ
青山和浩（東京大学教授）：システムデザインにおけるシステムの構造分析と俯瞰
長谷部伸治（京都大学教授）：システム合成のためのスーパーストラクチャー
パネルディスカッション（パネラー：講演者）

2. 会誌「横幹」第10巻第1号（2016年4月発行）

- ・巻頭言
船橋誠壽（北陸先端科学技術大学院大学）：世界に先駆けた社会を描く構想力
- ・解説：ミニ特集「システムデザイン力を展望する」
田浦俊春（神戸大学）：現代デザイン思考—技術と意味の時代の創造性—
古谷 純（(株)日立製作所）：社会イノベーション事業におけるデザインアプローチ
青山和浩、大泉和也、古賀 毅（東京大学）：製品システム設計におけるシステムの構造分析とマネジメント
長谷部伸治（京都大学）：スーパーストラクチャーを用いたプロセス合成

3. その他

本調査研究会と関連した事項として、図書「<知の統合>シリーズ」が刊行されることとなり、その第1巻および第3巻が、2016年4月に発行されることとなっている。

以上で、本調査研究会を終了する。

2-3-2 横断型人材育成プログラム調査研究会

(A) 2015年度の事業報告

設置期間	2015年3月～2017年3月	
幹事学会	計測自動制御学会	
主査	本多 敏	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
副主査	白坂 成功	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
幹事	神徳 徹雄	((国研)産業技術総合研究所、日本ロボット学会)
委員	旭岡 叡峻	(社会インフラ研究センター、研究・技術計画学会)
	遠藤 薫	(学習院大学、日本社会情報学会)
	長田 洋	(文教大学、品質管理学会、日本MOT学会)
	川田 誠一	(産業技術大学院大学、計測自動制御学会)
	神田 陽治	(北陸科学技術先端大学院大学、システム情報制御学会)
	小坂 満隆	(北陸科学技術先端大学院大学、システム情報制御学会)
	庄司 裕子	(中央大学、日本感性工学会)
	鈴木 久敏	(筑波大学、日本オペレーションズ・リサーチ学会)

高津 春雄 (横河電機(株)、計測自動制御学会)
古田 和雄 (東京大学、計測自動制御学会)
山本修一郎 (名古屋大学)

横幹連合が目指すコトづくりを推進する人材育成は重要な課題であり、産業界においても融合型人材への期待が大きい。科学技術が人間、社会、環境などとの関わりをもつようになり、単一の専門分野では解決が困難になりつつある多くの課題の解決には、縦型学問分野の壁を越えた分野横断型基盤技術の推進が重要な役割をもち、横断型・融合型視点から課題に取り組む人材教育が大きな課題となっている。本調査研究会では、これまでの研究会で実施した、横断型科学技術者育成のための育成体制の確立、文理融合を促進するための方法や教育制度の変革、横断型科学技術者の社会における評価の仕組み、横断型・融合型人材育成のロードマップ作成などを目標とした調査研究の成果をもとに、横幹連合の中長期計画で目標とした、人材育成プログラムとそのカリキュラムを具体化することを目的とした調査研究活動を行う。

1. 人材育成プログラムの調査研究

第1回研究会 (2015年4月6日(月) 17:00-19:00)

横幹中長期ビジョンで掲げられた、横幹知のカリキュラム化という研究会趣旨と進め方について自由討論

第2回研究会(2015年5月15日(金) 18:00-20:00)

レジリエンス工学研究センターの概要説明(古田委員)

横幹知の実現ではなく、横型人材(課題解決型人材)の育成をターゲットとすることを確認

第3回研究会(2015年6月15日(金) 18:00-20:00)

「横幹知の理論と工学」(山本委員)システム安全検証知識体系の構築事例について話題提供

第4回研究会(2015年8月3日(月) 18:00-20:00)

統合知ケースの具体的展開事例の紹介(山本委員)

教育プログラムを設計するためにも、横幹知について実例で示す必要がある

第5回研究会(2015年9月15日(火) 18:30-20:00)

統合知ケース事例紹介(山本・小坂両委員)

第6回研究会(2015年10月6日(火) 18:30-20:00)

出版企画についての説明。研究会での成果を<知の統合>シリーズ第2巻として出版予定

統合知ケース事例紹介(古田・川田両委員)

第7回研究会(2015年11月25日(水) 18:30-20:00)

統合事例紹介(本多委員長)

第8回研究会(2016年1月6日(水) 18:30-20:00)

ビジネスモデルについて話題提供(長田委員)

学会会議「知の統合の体系化と推進に向けて」について紹介・討論

第9回研究会(2016年2月16日(火) 18:30-21:00)

各委員が持ちよった執筆案について議論。

各著者は知の統合(統合知)は何か・著者はどう考えるかそしてその統合知を実現する人材をどう育てるかについて記載する

第10回研究会(2016年3月30日(火) 18:30-20:30)

執筆原稿ドラフトについて議論

2. 第6回横幹連合コンファレンス OS の実施

昨年度に引き続き横幹人材養成をテーマとして

12月6日(日)にOS「横断型人材育成プログラムの実践」を企画実施した。

オーガナイザ: 本多 敏(慶應義塾大学)

武田一哉(名古屋大学)

「博士課程教育リーディングプログラム「実世界データ循環学リーダー人材養成プロ

グラム」

倉林大輔(東京工業大学)

「東京工業大学 CBEC プログラムでの実践事例」

神田陽治(北陸先端大)

「北陸先端科学技術大学院大学が目指す全学融合教育研究 - 知識科学的方法論の全展開によるイノベーション創出人材の育成 -」

3. 研究会活動プランの検討

第10回研究会(2016年3月30日)にて現在検討中の<知の統合>シリーズ第2巻出版企画の内容の検討、ならびに統合知ケースを踏まえたカリキュラム作成についての活動計画を議論。

(B) 2016年度の事業計画

引き続き、人材育成プログラムとそのカリキュラムを具体化することを目的とした調査研究活動を行う。

活動成果の発信として

- ・横幹<知の統合>シリーズ の一巻を出版
- ・第7回横幹連合コンファレンスでの、OS ないしはパネルディスカッションを企画を予定している。

2015(平成27)年度 横幹連合 収支計算書

2015.4.1～2016.3.31

(単位：円)

収入の部

科 目	予 算 額	実績額	差異	消化率	備 考
1. 会費収入	1,970,000	1,950,000	20,000	99.0%	
2. 民間補助金	0	0	0		
3. 繰越金	1,547,658	1,547,658	0	100.0%	
4. 事業収入	9,210,000	2,605,460	6,604,540	28.3%	
受託事業	6,500,000	0	6,500,000	0.0%	
プロジェクト	0	0	0		
コンファレンス	2,300,000	2,008,000	292,000	87.3%	
会誌	400,000	597,460	▲ 197,460	149.4%	
その他	10,000	10,000	0	0.0%	
5. 繰入金収入	75,000	62,258	12,742	83.0%	木村賞
6. 雑収入	80,000	125,259	▲ 45,259	156.6%	
7. 引当金の繰り入れ	0	0	0		
8. その他	0	0	0		
収入合計 (A)	12,882,658	6,290,635	6,592,023	48.8%	

支出の部

科 目	予 算 額	実績額	差異	消化率	備 考
1. 管理費					
1.1 会議費	180,000	241,491	▲ 61,491	134.2%	
1.2 印刷製本費	50,000	37,152	12,848	74.3%	
1.3 通信運搬費	180,000	226,225	▲ 46,225	125.7%	
1.4 旅費交通費	160,000	153,678	6,322	96.0%	
1.5 人件費	860,000	665,622	194,378	77.4%	事業費振替分528,117円
1.6 消耗品・備品費	60,000	33,270	26,730	55.5%	
1.7 租税公課	5,000	0	5,000	0.0%	
1.8 雑費	10,000	303	9,697	3.0%	
小計	1,505,000	1,357,741	147,259	90.2%	
2. 事業費					
2.1.1 コンファレンス (除事務局)	2,000,000	1,933,934	66,066	96.7%	
2.1.2 コンファレンス事務局費	740,000	476,301	263,699	64.4%	
2.2 技術シンポジウム	0	0	0		
2.3 横幹技術フォーラム	0	0	0		
2.4 委員会 各2万円	6,000	1,100	4,900	18.3%	
2.5 調査研究会 各7・5万円	150,000	2,805	147,195	1.9%	
2.6 受託事業	6,500,000	0	6,500,000	0.0%	
2.7 課題解決プロジェクト	0	0	0		
2.8 プロジェクト請負活動	0	0	0		
2.9 広報費	70,000	82,842	▲ 12,842	118.3%	
2.10.1 会誌「横幹」(除事務局)	1,100,000	1,306,071	▲ 206,071	118.7%	
2.10.2 会誌「横幹」事務局費	120,000	51,816	68,184	43.2%	
2.11 木村賞	75,000	62,258	12,742	83.0%	
2.12 支払負担金	0	30,000	▲ 30,000		防災学術連携体会費
2.13 その他	0	0	0		
小計	10,761,000	3,947,127	6,813,873	36.7%	
3. 予備費					
3.1 予備費	562,658	0	562,658	0.0%	
小計	562,658	0	562,658	0.0%	
支出合計 (B)	12,828,658	5,304,868	7,523,790	41.4%	
収支差額 (A - B)	54,000	985,767			

(単年度収支 ▲ 561,891)

2015(平成27)年度 横幹連合 貸借対照表
2016年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金	38,317		
預 金	1,173,250		
未 収 金	0		
立 替 金	0		
仮 払 金	0		
流動資産合計		1,211,567	
2. 固定資産			
什器備品	0		
木村賞基金	549,284		
基 金	1,000,000		
固定資産合計		1,549,284	
資産合計			2,760,851
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未 払 金	197,641		
預 り 金	28,159		
前 受 金	0		
仮 受 金	0		
流動負債合計		225,800	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			225,800
III. 正味財産の部			
一般正味財産	985,767		
指定正味財産	1,549,284		
正味財産合計			2,535,051
負債および正味財産合計			2,760,851

2015 年度横幹連合会計 利益処分案

(単位:円)

2015 年度収支差額(内一般正味財産)

¥985,767

利益処分案

2016 年度会計への繰越

¥985,767

以上

監 査 報 告 書

特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合の 2015 年 4 月 1 日から 2016 年 3 月 31 日にいたる会計年度の収支明細と現預金残高について、書類に基づき会計監査を行った結果、適正に会計処理されており、別紙収支計算書および現預金残高は事実と相違ないことを確認しました。木村賞基金につきましても、正しく管理されていることを証します。

また、同年度の理事会に出席して業務監査を行い、理事会の議事運営が規約に則り適正に行われていたことを確認しました。

横断型基幹科学技術研究団体連合の監査結果を以上のとおり、監事として署名・押印して報告します。

2016 年 4 月 12 日

特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合

監事 木村 忠正 

(木村 忠正)

監事  

(安岡 善文)

2016(平成28)年度横幹連合予算(案)

(単位：円)

科 目	予算額	前年度実績	対前年度実績差異	備 考
収入の部				
1. 会費収入	1,920,000	1,950,000	▲ 30,000	国際数理科学協会退会(2016.3)
2. 民間補助金	0	0	0	
3. 繰越金	985,767	1,547,658	▲ 561,891	
4. 事業収入	9,110,000	2,605,460	6,504,540	
受託事業	6,500,000	0	6,500,000	公募プロジェクト等
プロジェクト	0	0	0	協議会プロジェクト
コンファレンス・シンポジウム	2,200,000	2,008,000	192,000	協議会協賛含む
会誌	400,000	597,460	▲ 197,460	協議会案内掲載料含む
その他	10,000	0	10,000	
5. 繰入収入	75,000	62,258	12,742	木村賞
6. 雑収入	80,000	125,259	▲ 45,259	総会懇親会費等
7. 引当金繰り入れ	0	0	0	
収入合計 (A)	12,170,767	6,290,635	5,880,132	
支出の部				
1. 管理費				
1.1 会議費	200,000	241,491	▲ 41,491	総会会場費等
1.2 印刷製本費	30,000	37,152	▲ 7,152	
1.3 通信運搬費	180,000	226,225	▲ 46,225	
1.4 旅費交通費	160,000	153,678	6,322	
1.5 人件費	820,000	665,622	154,378	
1.6 消耗品費・備品費	60,000	33,270	26,730	会計ソフトサポート費用
1.7 租税公課	5,000	0	5,000	印紙代等
1.8 雑費	10,000	303	9,697	
小計 (k)	1,465,000	1,357,741	107,259	
2. 事業費				
2.1.1 コンファレンス・シンポジウム(除事務局)	1,630,000	1,933,934	▲ 303,934	
2.1.1 コンファレンス・シンポジウム事務局費	780,000	476,301	303,699	
2.2 技術シンポジウム	0	0	0	
2.3 横幹技術フォーラム	0	0	0	
2.4 委員会 各2万円	60,000	1,100	58,900	企画・産学・学術
2.5 調査研究	150,000	2,805	147,195	75,000円/研究会
2.6 受託事業	6,500,000	0	6,500,000	
2.7 課題解決プロジェクト	0	0	0	
2.8 プロジェクト請負活動	0	0	0	
2.9 広報費	70,000	82,842	▲ 12,842	
2.10.1 会誌「横幹」(除事務局)	300,000	1,306,071	▲ 1,006,071	編集費, 支援料
2.10.2 会誌「横幹」事務局費	180,000	51,816	128,184	編集費増
2.11 木村賞	75,000	62,258	12,742	
2.12 支払負担金	30,000	30,000	0	防災学術連携体会費
2.13 その他	0	0	0	
小計 (j)	9,775,000	3,947,127	5,827,873	
3. 予備費			0	
3.1 予備費	930,767	0	930,767	
小計 (y)	930,767	0	930,767	
支出合計 (B = k + j + y)	12,170,767	5,304,868	6,865,899	
収支差額 (A - B)	0	985,767	▲ 985,767	